

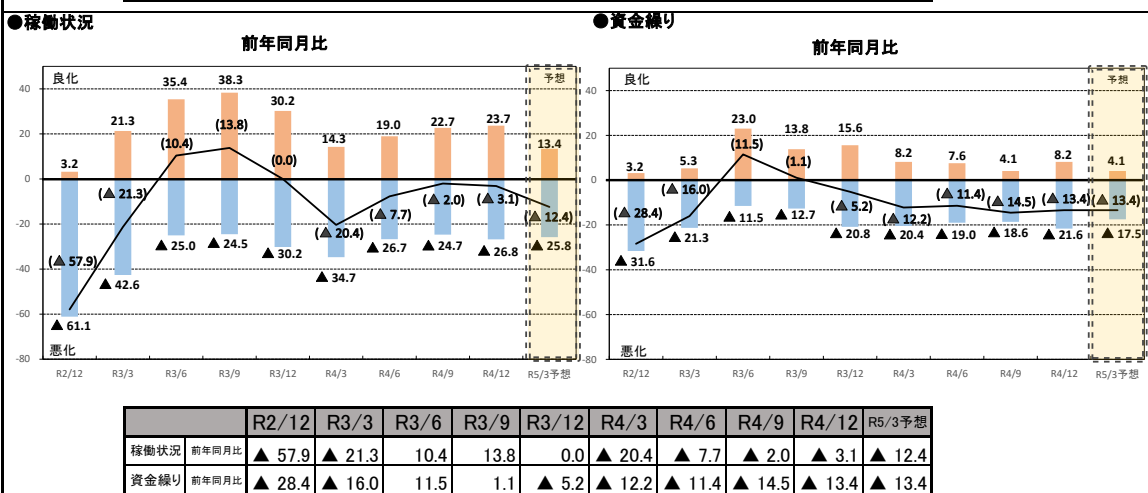
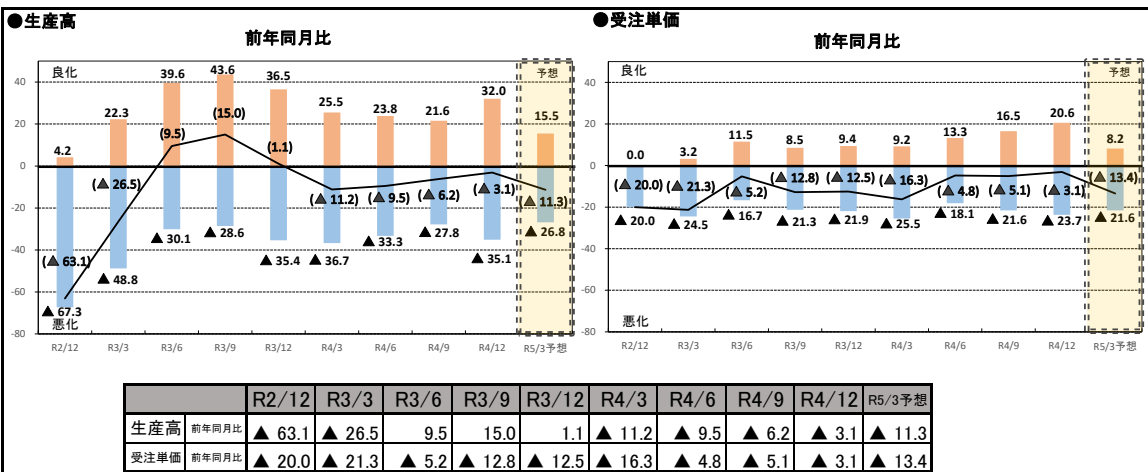
受注企業動向調査結果

-2023.1-

- 調査時点 令和4年12月調査(令和4年12月末時点)
- 対象企業 150社
- 調査時期 4半期毎(3、6、9、12月末時点)
- 回答企業 97社(回答率:64.67%)

＜業種内訳＞	
プラスチック	8社
鉄鋼・非鉄	6社
金属製品	18社
一般機械器具	22社
電気機器	18社
輸送用機器	7社
精密機器	10社
縫製	8社
計	97社

DI(Diffusion Index)とは、景気の動きをとらえるための指標であり、良化と回答した企業の割合から、悪化と回答した企業の割合を減じた数値です。



●概要(総合)

- ・生産高(前年同月比)DIは▲3.1で前回の▲6.2から3.1ポイント増となった。
- ・受注単価(前年同月比)DIは▲3.1で前回の▲5.1から2.0ポイント増となった。
- ・稼働状況(前年同月比)DIは▲3.1で前回の▲2.0から1.1ポイント減となった。
- ・資金繰り(前年同月比)DIは▲13.4で前回の▲14.5から1.1ポイント増となった。
- ・3ヶ月後の予想DIは生産高が▲11.3、受注単価は▲13.4、稼働状況が▲12.4、資金繰りは▲13.4という予想になった。
- ・その他自由意見として、

- ・依然として人材不足である。
- ・電気料金の大幅アップがかなり負担となっている。
- ・仕入・経費の上昇が単価に繰り入れられず、経営を圧迫している。
- ・電気代・資材価格の上昇に販売価格が追いつかない。
- ・新規品は見積で対応できるが、既存品への大幅値上げは困難である。
- ・材料及び電力料の急上昇は痛手で自助努力の範疇は既に超えている。
- ・しかし、売り先の価格転嫁の動きは鈍く、国と大企業の早急な対策を望む。
- ・100%値上げができていないのが現状である。
- ・売上に対する原材料の割合が上昇している。加工費についても値上げをしないと社員の給与があげられなくなる。
- ・仕事量は上昇傾向と思われそうですが、不透明な部分もある。
- ・3ヶ月先ですら、予測が困難となっている。
- ・半導体を中心とした部品供給不足が解消しており、各顧客からの受注が回復し、急増してきている。
- ・来年は、売上与生産規模の拡大を図りたい。

という意見が寄せられた。